

第2専門部会(健康福祉・教育・行政分野)

施策評価表 および 検討結果

施策名	2 1 1	地域の福祉活動を支援する
	2 2 1	健康づくりを支援する
	2 3 1	地域で子育てを支える
	2 4 2	高齢者の多様な社会参加を支援する
	2 5 4	障害者の就労・社会参加を支援する
	2 6 1	生活の安定のための支援を行う
	3 1 2	地域とともに歩む学校づくりを推進する
	3 2 2	小中学校の教育内容を充実する
	3 3 2	家庭・学校・地域の連携を支援する
	3 4 1	生涯学習活動を支援する
	5 1 1	参加と連携による開かれた行政を進める

(1) 施策を達成する手段(事務事業)について													
		211	221	231	242	254	261	312	322	332	341	511	
施策を達成する手段として適当か		△	○	△	△	○	○	○	○	△	△	○	
(2) 成果指標について													
		211	221	231	242	254	261	312	322	332	341	511	
指標1	指標の性質	ア)代表性	△	△	○	△	○	△	△	△	△	△	○
		イ)わかりやすさ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		ウ)普遍性	○	○	○	△	○	○	○	△	△	○	○
		エ)その他	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
		オ)総合	○	△	○	△	○	△	△	△	△	△	○
	目標の妥当性	△	○	○	△	△	△	△	△	△	○	△	○
指標2	指標の性質	ア)代表性	△	△	○	△	○	△	○	○	○	○	○
		イ)わかりやすさ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		ウ)普遍性	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		エ)その他	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
		オ)総合	△	△	○	△	○	△	○	○	○	○	○
	目標の妥当性	△	○	○	○	○	△	○	△	△	△	△	○
指標3	指標の性質	ア)代表性	△	△			○		○	○			△
		イ)わかりやすさ	○	△			○		○	○			○
		ウ)普遍性	○	△			○		○	○			○
		エ)その他	/	/			/		/	/			/
		オ)総合	△	△			○		○	○			△
	目標の妥当性	△	△			○		○	○			○	
全体	指標の代表性	△	△	△	△	○	△	○	△	△	△	○	
	目標の達成度	△	○	○	△	○	○	○	○	○	△	○	
(4) 評価について													
		211	221	231	242	254	261	312	322	332	341	511	
成果	ア)評価区分の妥当性	○	○	○	△	○	○	○	○	○	△	○	
	イ)判断理由の妥当性	○	△	○	△	○	○	○	○	○	△	○	
	ウ)その他	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
成果と経費の比較	ア)評価区分の妥当性	△	○	△	△	○	○	○	○	△	○	○	
	イ)判断理由の妥当性	△	○	△	△	○	○	○	○	△	○	○	
	ウ)その他	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	
要因分析	内部要因	△	○	○	○	○	○	△	○	○	△	○	
	外部要因	○	○	○	○	○	○	△	△	○	△	○	
総合評価	ア)評価区分の妥当性	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	
	イ)判断理由の妥当性	○	△	○	○	○	○	○	○	△	△	○	
	ウ)その他	※	/	※	/	/	※	/	/	/	/	/	
(5) 改革・改善案について													
		211	221	231	242	254	261	312	322	332	341	511	
ア)評価結果との関連性		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
イ)内容の具体性		△	○	○	○	○	○	△	○	△	△	○	
ウ)その他		/	/	※	/	/	/	/	/	/	/	/	

注:『/』は該当なし、『※』はコメント有り

施策名		211. 地域の福祉活動を支援する		
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
施策を達成する手段として適当か	△	本施策では、自助、公助、共助を組み合わせることを期待しているが、共助は地域福祉団体だけでなく、区民が直接参加することも手段の一つとして考えられ、現状の手段は適切であるが、施策の目標に照らすと、投入(事務事業数)が不十分ではないかと考える。		
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標①		地域福祉活動団体との協働事業数	
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	△	・現状では、指標は全て定量的に計測されているが、単に実施している事業の数を把握しているだけで、施策の成果を反映した指標としては説得力を欠いている。 ・利用者や受益者を対象とするアンケート結果などの定性的な評価を指標に盛り込むことを検討した方が良い。
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	○	
		エ) その他	/	
		オ) 総合	○	
	目標の妥当性	△	1年で10件も増えたにもかかわらず、今後4年で3件しか増えないという目標を立てた根拠が十分でない。	
	指標②		地域福祉活動団体交流会の参加者人数	
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	△	・同じ人が繰り返し交流会に参加する可能性があることを考慮すると、延べ人数のカウントは必ずしも活動の拡大を意味しないのではないかと。 ・代用指標として、各団体の登録者数や、利用者や受益者を対象としたアンケート結果等が考えられるのではないかと。
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	○	
		エ) その他	/	
		オ) 総合	△	
目標の妥当性	△	50人に一人の参加が果たして妥当なのかについての根拠が十分でない。		
指標③		移動サービス団体の利用会員数		
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 代表性	△	この指標は、事務事業「福祉有償運送支援事務」の成果指標としては適切であるが、その他の事務事業との関連性は低いため、施策の成果指標としてはあまり適切でないと思われる。	
	イ) わかりやすさ	○		
	ウ) 普遍性	○		
	エ) その他	/		
	オ) 総合	△		
目標の妥当性	△	・規制により全国的には活動が縮小傾向にあるというが、そこに至った背景や理由によっては、練馬区として活動規模を維持し、会員を拡大させることの意義を見直す必要があるのではないかと。外部環境が変化しているにも関わらず区としてさらに活動を推進していこうとしているが、その理由を知りたい。		
指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点	
	目標の達成度(指標のみから判断した達成度)	△	・ここで選定された指標は地域福祉活動団体との「連携」が中心の指標となっている。施策の目的に照らし、現状の3つの指標がその目的に沿っているかについて疑問が残る。 ・区民の声が反映されるような指標を組み込むべきではないかと。	
		評価	コメント・改善点	
		△	比較対象のデータがないため、時系列での変化は把握できなかった。	

〔評価〕 ○:良い(重要) △:やや疑問(あまり重要でない) ×:問題あり(重要でない) -:該当なし

(3) 経費・財源について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
7) 必要事項は記載されているか	／	
1) 記載内容の正確性	／	
(4) 評価について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
成果	7) 評価区分の妥当性	○ ・既存の指標の推移からみて、評価区分は妥当である。
	1) 判断理由の妥当性	○ ・既存の指標の推移からみて、評価区分は妥当である。
	7) その他	／
成果と経費の比較	7) 評価区分の妥当性	△ 判断の根拠がない。
	1) 判断理由の妥当性	△ 判断の根拠がない。
	7) その他	／
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	△ ・内部要因②「.. NPOとの協働により事業を進める手法が一般化してきた」とあるが、一般化することと施策の成果が上がることの因果関係がわかりにくい。区民にわかるように書き直す必要がある。
	外部要因 記載内容の妥当性	○ 特に問題なし
総合評価	7) 評価区分の妥当性	○ 特に問題なし
	1) 判断理由の妥当性	○ 特に問題なし
	7) その他	※ 指標のみから判断すれば妥当であるが、指標そのものの選択が十分と思えない。
(5) 改革・改善案について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
7) 評価結果との関連性	○	
	1) 内容の具体性	△ ①の改善案として、講座参加者からできるだけ多くの住民が活動につながるような工夫をしていく。とあるが、どのようにすれば活動につながると考えるのか、また工夫とは具体的にどういうことかの説明が必要である。 ②地域福祉活動団体とも連携を取りながら進めていく。とあるが、これまでもある程度の連携はあったと推測される。これまでも以上の連携とは具体的にどういうことか、共助の観点も入れつつ、区民にわかりやすい説明に書き直す必要がある。
	7) その他	／
(6) その他		
その他		

〔評価〕 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) -:該

施策名		221. 健康づくりを支援する		
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
施策を達成する手段として適当か	○	適切・妥当と判断するが、以下、「指標全体の評価」の代表性においてコメント有り。		
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標①		生活習慣病基本健康診査受診率	
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	△	指標としてはわかりやすいが、本指標は事務事業「生活習慣病健康診査事業」の成果指標であり、施策の指標としての代表性については疑問が残る。
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	○	
		エ) その他	/	
		オ) 総合	△	
	目標の妥当性	○	区の追加説明により適切・妥当と判断する。	
	指標②		乳幼児健康診査受診率	
	視点	評価	コメント・改善点	
指標の性質	ア) 代表性	△	指標としてはわかりやすいが、本指標は事務事業「母子健康診査事業」の成果指標であり、施策の指標としての代表性については疑問が残る。	
	イ) わかりやすさ	○		
	ウ) 普遍性	○		
	エ) その他	/		
	オ) 総合	△		
目標の妥当性	○	適切・妥当と判断する。		
指標③		運動方法を習得し、継続的に実施できると回答した人の割合		
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 代表性	△	・区として、区民が進んで健康づくりに取組めるようにする仕組み作りの事務事業が施策の手段として十分にとられていない中、「運動方法を習得し、継続的に実施できると回答した人の割合」を指標とするのには無理があるように思う。 ・アンケートは何処で、どのようにとるかによっても、指標の代表性や普遍性は大きく左右される。 ・アンケートの対象となる母集団は何か。いわゆる「冷やかし組」を除外して母集団を設定する必要がある。	
	イ) わかりやすさ	△		
	ウ) 普遍性	△		
	エ) その他	/		
	オ) 総合	△		
目標の妥当性	△	目標値の根拠が明確でないため判断ができない。		
指標全体の評価	指標の代表性	△	・世代別に指標が立てられていることは理解できるが、指標から漏れている世代(小中学生)もあり、世代横断的な指標を検討する必要がある。 ・本施策のニーズが「医療費等の社会的な負担の増大を抑制するため」なのであれば、年間医療費の推移を中心的な指標とした方がより適切なのではないか。	
	目標の達成度(指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	
		○	代表性に欠ける点はあるが、既存の指標の成果は上がっている。	

〔評価〕 ○:良い(重要) △:やや疑問(あまり重要でない) ×:問題あり(重要でない) -:該当なし

(3) 経費・財源について			
検討・評価の視点		評価	コメント・改善点
7) 必要事項は記載されているか		／	
1) 記載内容の正確性		／	
(4) 評価について			
検討・評価の視点		評価	コメント・改善点
成果	7) 評価区分の妥当性	○	評価区分は妥当と考える。
	1) 判断理由の妥当性	△	・「成果が上がっていない」ことについての判断理由が記述されていない。 ・より具体性のある記述が望ましい。
	7) その他	／	
成果と経費の比較	7) 評価区分の妥当性	○	特に問題ない。
	1) 判断理由の妥当性	○	評価の判断理由については、区民の立場からわかりにくいため、より具体的に記述することが望ましい。
	7) その他	／	
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	○	情報が不十分であるため、より具体的に記述することが望ましい。
	外部要因 記載内容の妥当性	○	適切・妥当と判断する。
総合評価	7) 評価区分の妥当性	○	適切・妥当と判断する。
	1) 判断理由の妥当性	△	ここは世代別各種検診の受診率により妥当性を議論するのではなく、年間医療費の推移から議論がなされるべきではないか。そういう意味で決め手に欠ける。
	7) その他	／	
(5) 改革・改善案について			
検討・評価の視点		評価	コメント・改善点
	7) 評価結果との関連性	○	適切・妥当と判断する。
	1) 内容の具体性	○	「実施体制を整える」とあるが、誰が何をするのかより具体的に記述することが望ましい。
	7) その他	／	
(6) その他			
その他			

〔評価〕 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) -:該

施策評価表検討表

第2専門部会協議結果 (5/1現在)

施策名		231. 地域で子供を支える		
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
施策を達成する手段として適当か	△	事務事業の内容は施策の目的を達成する手段として適当であるが、施策の目指す状態に照らすと、事務事業に手段が全て網羅されているとは思えない。		
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標①		子育てひろばの整備箇所数	
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	○	適切・妥当と判断する
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	○	
		エ) その他	/	
		オ) 総合	○	
	目標の妥当性	○	適切・妥当と判断する	
	指標②		ファミリーサポートセンター事業の利用延件数	
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	○	適切・妥当と判断する
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	○	
		エ) その他	/	
		オ) 総合	○	
目標の妥当性	○	目標値設定の説明がわかりにくい。		
指標③		なし		
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 代表性			
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 普遍性			
	エ) その他			
	オ) 総合			
目標の妥当性				
指標全体の評価	指標の代表性	△	施策全体の内容に照らすと、乳幼児を対象とした指標に偏っているという印象。「子供の年齢別(乳幼児、小学生、中学生)に、保護者に対する満足度を測る、区民参加の視点を入れる等の視点で指標を追加すべき。	
	目標の達成度(指標のみから判断した達成度)	○	適切・妥当と判断する	
		評価	コメント	

〔評価〕 ○:良い(重要) △:やや疑問(あまり重要でない) ×:問題あり(重要でない) -:該当なし

(3) 経費・財源について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
7) 必要事項は記載されているか	／	
1) 記載内容の正確性	／	
(4) 評価について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
成果	7) 評価区分の妥当性	○ 適切・妥当と判断する
	1) 判断理由の妥当性	○ 適切・妥当と判断する
	7) その他	
成果と経費の	7) 評価区分の妥当性	△ 判断の根拠がない
	1) 判断理由の妥当性	△ 成果と経費の事と関係のないことが理由として記述されている
	7) その他	／
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	○ ①、②ともに何（どのような結果）に対する要因なのか文言からは読み取りにくい。区民にわかりやすい表現で記述すべきである。
	外部要因 記載内容の妥当性	○ ①、②ともに何（どのような結果）に対する要因なのか文言からは読み取りにくい。区民にわかりやすい表現で記述すべきである。
総合評価	7) 評価区分の妥当性	○ 適切・妥当と判断する
	1) 判断理由の妥当性	○ 満足度調査の結果等が反映されるとよりわかりやすい。
	7) その他	※ ・指標のみから判断すれば妥当であるが、施策としての指標が十分と思えないため、良好に進んでいるとは言いきれない。 ・地域で子育てを支えるためには、区民の大人がもっと参加できるようなしくみが必要と思うが、現在は、区が中心の支援事業ばかりで、区民参加を促進する仕組みが見えていない。このような視点で事務事業とその指標の追加が必要だと思う。
(5) 改革・改善案について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
7) 評価結果との関連性	○	適切・妥当と判断する。
	1) 内容の具体性	○ 適切・妥当と判断する
	7) その他	※ ア)、イ) 共に説明が十分とはいえない。改善案とはその要因を真因まで掘り下げ、その真因に対して5W1Hで具体化する物と考える。
(6) その他		
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に主語、結語がない文章が多いため、何を言わんとしているのかがよくわからない。 ・区民参加のしくみには、何らかのインセンティブが必要だと思う。例えば相互扶助ポイント（地域通貨）など。 ・事務事業評価表 N015 子育てのひろばびよびよ事業は、混雑してなかなか利用が難しいという声もあるようだ。施設の数を増やすことも大事だが、満足度などの観点も必要ではないか。 ・事務事業評価表 N02 育児学級等事業 目標に対して参加者が少ないのは、周知方法化、プログラム内容なのか、目標自体に無理があるのか要検討。 ・助成事務、認定支給事務については、滞りなく実施されており、指標にもなっていないが、区民からの要望について、対応可能な部分是对応していただきたい。 ・これらの事業の広報普及活動がどのようになされているのか知りたい。区民の間での認知度についてのデータを見たい。

〔評価〕 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) -:該当なし

施策評価表検討表

第2専門部会協議結果 (5/1現在)

施策名		242. 高齢者の多様な社会参加を支援する		
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
施策を達成する手段として適当か	△	事務事業の内容は施策の目的を達成する手段として適当であるが、施策の目指す状態に照らすと、事務事業に手段が全て網羅されているとは思えない。特に、多様な社会参加を受け入れる組織の視点が抜けているように思う。		
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標①		地域福祉パワーアップカレッジねりまの60歳以上の卒業生のうち、社会活動参	
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	△	・パワーアップカレッジは事業が開始されたばかりであり、区民からもあまり認知されていない中で施策の成果指標として選定することに疑問が残る。 ・地域福祉パワーアップカレッジねりまを受講する人は、そもそも社会参加活動の意欲が強く、この方たちの継続状況が『高齢者が社会を担う一員として活躍している状態』を代表する指標とは考えにくい。
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	△	
		エ) その他	／	
		オ) 総合	△	
	目標の妥当性	△	単なる希望値としてもとれるため、基準を明確にすべきである。	
	指標②		アクティブシニア支援室における就職件数	
	視点	評価	コメント・改善点	
指標の性質	ア) 代表性	△	アクティブシニア支援室の実績が一つの指標となることは理解できるが、下位の高齢者センター・敬老館の運営、シルバー人材センターの活動等、「高齢者の多様な社会参加」の状況を見る視点としては代表的な指標とは言えない。	
	イ) わかりやすさ	○		
	ウ) 普遍性	○		
	エ) その他	／		
	オ) 総合	△		
目標の妥当性	○	適切・妥当と判断する		
指標③				
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 代表性			
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 普遍性			
	エ) その他			
	オ) 総合			
目標の妥当性				
指標全体の評価	指標の代表性	△	アクティブシニアに対する支援の状況だけを見る指標としては適切といえるが、高齢者の就職活動に限定するのではなく、「高齢者の社会参加」という視点での指標や、高齢者の就職活動を支援する区内における企業の協力状況を測るような指標についても検討してはどうか。	
	目標の達成度(指標のみから判断した達成度)	△	実績がない事業を指標としているため、現時点では判断できない	
		評価	コメント	

【評価】 ○: 良い(重要) △: やや疑問(あまり重要でない) ×: 問題あり(重要でない) -: 該当なし

(3) 経費・財源について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
ア) 必要事項は記載されているか	/	
イ) 記載内容の正確性	/	
(4) 評価について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
成果	ア) 評価区分の妥当性	△ ・①の指標は実績がないため、施策との成果として評価区分の妥当性を判断するのは時期尚早と考える。 ・成果の判断がAとBの2択しかない点にも問題がある。
	イ) 判断理由の妥当性	△ 同上の理由
	ウ) その他	/
成果と経費の比較	ア) 評価区分の妥当性	△ 事業が新しいため判断できない。
	イ) 判断理由の妥当性	△ 事業が新しいため判断できない。就職率の増加のみの実績を以て、成果と経費の比較について適切であると判断するのは難しい。
	ウ) その他	/
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	○ ・適切・妥当と判断する ・内部で創意工夫を行った事項について記載して欲しい。
	外部要因 記載内容の妥当性	○ ・適切・妥当と判断する ・ここで指摘された外部要因への区の具体的な対応策について、(5)改革・改善案で詳しく述べられる必要がある。
総合評価	ア) 評価区分の妥当性	○ 適切・妥当と判断する
	イ) 判断理由の妥当性	○ 適切・妥当と判断する
	ウ) その他	/
(5) 改革・改善案について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
	ア) 評価結果との関連性	○ 適切・妥当と判断する
	イ) 内容の具体性	○ 適切・妥当と判断する。
	ウ) その他	/
(6) その他		
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・区における高齢者の存在が大きくなる中、早い時点で高齢者のニーズ、及び高齢者のニーズに対する社会の現状を細かく把握、分析することが重要である。 ・高齢者に提供できる仕事はどのようなもので、どの位区内にニーズがあるかなど、実態調査をもっと行い、それに沿った、区民の視点の事業を増やすべきと思う。 ・施設等の管理運営事業については、より質の高いサービスを提供しながら、一層委託を進めコスト削減を目指してほしい。 ・「地域福祉パワーアップカレッジねりま」は、その方向性を更に明確にする必要がある。現在は26名が学んでいるが、1学年目の内容は一般的なことを広く浅くの感もある。2学年目には、練馬区内で行っている具体的な地域福祉活動の実態と問題点などの提案や改善方向の提示などが欲しい。

〔評価〕 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) -:該当なし

施策評価表検討表

第2専門部会協議結果 (5/1現在)

施策名		254. 障害者の就労・社会参加を支援する		
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
施策を達成する手段として適当か	○	適切・妥当と判断する。		
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標①		障害者の就職者数	
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	○	就労を希望する障害者の何%が就職できているという相対指標の方が客観性がある。就職者数だけでは、他区などとの比較検討ができない。
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	○	
		エ) その他	/	
		オ) 総合	○	
	目標の妥当性	△	目標設定の根拠が明確でない。	
	指標②		障害者の職場定着率	
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	○	適切・妥当と判断する。
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	○	
		エ) その他	/	
		オ) 総合	○	
目標の妥当性	○	適切・妥当と判断する。		
指標③		障害者雇用率		
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 代表性	○	適切・妥当と判断する。	
	イ) わかりやすさ	○		
	ウ) 普遍性	○		
	エ) その他	/		
	オ) 総合	○		
目標の妥当性	○	適切・妥当と判断する。		
指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点	
		○	・適切・妥当と判断する。 ・ネットワーク構築に関する事業成果が評価できる定量的指標があるとなお良い。	
	目標の達成度 (指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	
	○	適切・妥当と判断する。		

[評価] ○:良い(重要) △:やや疑問(あまり重要でない) ×:問題あり(重要でない) -:該当なし

(3) 経費・財源について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
7) 必要事項は記載されているか	／	
4) 記載内容の正確性	／	
(4) 評価について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
成 果	7) 評価区分の妥当性	○ 適切・妥当と判断する
	4) 判断理由の妥当性	○ 適切・妥当と判断する
	7) その他	／
成果と経費の比較	7) 評価区分の妥当性	○ 特に問題はない
	4) 判断理由の妥当性	○ 適切・妥当と判断する
	7) その他	／
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	○ 適切・妥当と判断する
	外部要因 記載内容の妥当性	○ ・適切・妥当と判断する ・法律だけで一方的に協力すべきとするのではなく、企業にもメリットがあるように運用しないと、短期に行き詰まると思われる。
総合評価	7) 評価区分の妥当性	○ 適切・妥当と判断する
	4) 判断理由の妥当性	○ 適切・妥当と判断する
	7) その他	／
(5) 改革・改善案について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
7) 評価結果との関連性	○ 適切・妥当と判断する	
	4) 内容の具体性	○ ・適切・妥当と判断する ・地元企業に提案するとあるが、より具体的な記述があるとよい。
	7) その他	／
(6) その他		
その他		<p>・全体としてよく書けているが、指標の目標設定の欄には、目標値のみならず、根拠についてもきちんと記載すべきである。後から提出された資料等で多くは理解できるが、一般区民がこうした資料を探しあてるのではなく、評価シートを読めば全てわかるようにして欲しい。</p> <p>・障害者の福祉工房／作業所の労働収入は月額数千円から1万円程度である。労働意欲が湧いてくる金額ではない。金額の改善も求められるが、お金以外に就労の喜びが感じ取れる社会にしていく施策が必要である。企業の受け入れ拡大は困難と思われるため、福祉工房／作業所の数拡大を考えていく必要があるだろう。</p> <p>・障害者の就職率を高めるためには、障害者とその家族への働きかけに加え、区として、練馬区内企業への働きかけをもっと行っていくことが重要と考える。</p>

〔評価〕 ○: 妥当(問題なし) △: やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×: 妥当性を欠く(問題あり) -: 該当なし

施策評価表検討表

第2専門部会協議結果 (5/1現在)

施策名		261. 生活の安定のための支援を行う		
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
施策を達成する手段として適当か	○	適切・妥当と判断する		
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標①	就労支援専門員により就労支援した人数		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	△	・人数では客観性が低く、指標の代表性としては不十分と考える。例えば、地区担当員などが自立したい人の数を把握し、その中の何%を支援したかなどの客観的数字で結果を判断するようにはどうか。 ・施策の目指す状態は「生活の安定のための支援」である。就労支援の人数はイコール就労者の人数ではないと考えると、必ずしも生活の安定に繋がらない。
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	○	
		エ) その他	/	
		オ) 総合	△	
	目標の妥当性	△	目標が増加では、妥当性は測れない。過去の実績と現状から目標の設定を試みるべきである。	
	指標②	就労支援専門員による就労支援により就労した人数		
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	△	人数では客観性が無く指標の代表性としては不十分。地区担当員などが自立したい人の数を把握し、その中の何%が就労したなどの客観的数字で結果を判断したい
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	○	
		エ) その他	/	
オ) 総合		△		
目標の妥当性	△	目標が増加では、妥当性は測れない。過去の実績と現状から目標の設定を試みるべきである。		
指標③	なし			
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 代表性			
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 普遍性			
	エ) その他			
	オ) 総合			
目標の妥当性				
指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点	
		△	・施策の指標としては上記①②だけでは十分でない。さらなる検討が必要と思われる。 ・困窮所帯が自立している状態の指標や安定して生活しているとは何かを考え、それらを指標として設定することも必要ではないのか。 ・生活保護世帯数を人口比で見るとし、全国や都の平均値との比較から練馬区の目標値を設定を試みるべきである。 ・指標として就労支援に関するものだけが取り上げられているが、就学支援など他の援護事務の成果指標も取り入れることを検討して欲しい。	
	目標の達成度(指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	
	○	・目標値が「増加」だけなのに何を持って達成と言えるか判断に苦しむ。		

〔評価〕 ○:良い(重要) △:やや疑問(あまり重要でない) ×:問題あり(重要でない) -:該当なし

(3) 経費・財源について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
ア) 必要事項は記載されているか	／	
イ) 記載内容の正確性	／	
(4) 評価について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
成果	ア) 評価区分の妥当性	○ 目標が、増加だけなのに何を以て成果が上がっていると言えるのか判断に苦しむ。
	イ) 判断理由の妥当性	○ 目標が、増加だけなのに何を以て①、②とも目標達成と言えるのか判断に苦しむ。
	ウ) その他	／
成果と経費の比較	ア) 評価区分の妥当性	○ 上記「成果」の項目に同じ理由。
	イ) 判断理由の妥当性	○ 上記「成果」の項目に同じ理由。
	ウ) その他	／
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	○ ・ 成果指標①に示された実績値からみると、多様な専門家が確保されていると考えられる。どのような分野の方々がどのような方法により支援しているのか興味がある。 ・ ノウハウを備えた就労支援専門家とはどういう人か等、より具体的な説明があるとわかりやすい。 ・ 要因分析はより多面的に行われることが望ましい。
	外部要因 記載内容の妥当性	○ ・ 「雇用環境の改善が続いている」ことについて、国なのか、区なのか、より具体的な説明が欲しい。 ・ 非正規雇用の環境が良い理由を明記するとよい。
総合評価	ア) 評価区分の妥当性	○ ・ 良好に進んでいる面もあると思うが、目標値の設定が曖昧であるため、結果が面的であり、目標値に対してどのように実績がどのように接近しているのか等は不明である。
	イ) 判断理由の妥当性	○ ・ 就労により、困窮区民の自立に効果があった事は認めるが、就労以外にも、自立、安定生活の手段もあるので、より多面的な指標を設定していく必要があるのではないか。
	ウ) その他	※ ・ 就労により、困窮区民の自立に効果があった事は認めるが、就労以外にも、自立、安定生活の手段もあるので、より多面的な指標を設定していく必要があるのではないか。 ・ 設定された指標だけみれば、適切であるが、この指標では施策全体としての評価を判断できない。
(5) 改革・改善案について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
ア) 評価結果との関連性	○	
イ) 内容の具体性	○	・ なぜ①から④の改善が必要であるのか、評価結果からはその関連性が読み取れない。 ・ 明記された改善案を進めることにより、何がどうなるのか、より具体的な説明が必要である。
ウ) その他	／	
(6) その他		
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・ 施策の対象者が限定されなければ評価はできない。少なくとも保護人員数を算出すべき。 ・ 指標については、代表性の観点からさらなる検討がなされるべきである。 ・ 単に支援するだけでは、甘えの原因ともなるので、体が元気であれば、他の人を助ける共助などのボランティア活動を増加させる手段はないのか？ ・ 16年度と18年度の比較を単純には出来ないが・・・16年度は就労支援した人数が204名で就労人数が56名(27.5%)、就労出来なかった人は148人である。18年度は就労支援した人数が446名で就労人数が173名(38.8%)である。しかしながら就労出来なかった人は273名いる。未就労者の人数を減らすことが成果とも考えられる。

〔評価〕 ○: 妥当(問題なし) △: やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×: 妥当性を欠く(問題あり) - : 該当なし

施策評価表検討表

第2 専門部会協議結果 (5/1現在)

施策名		312. 地域とともに歩む学校づくりを推進する		
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
施策を達成する手段として適切か	○	適切・妥当と判断する		
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標①		学校応援団構成員数	
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	評価	・下位の事務事業では、応援団校数と応援団の人数をとっているが、施策の指標としては代表性が不十分であると思われる。例えば、校数と各校当たりの人数とした方が良いのではないか。 上記理由による。(各学校に何人の応援団がいればよいのかなどを調査し、それを目標にすべき。)	
	ア) 代表性	△		
	イ) わかりやすさ	○		
	ウ) 普遍性	○		
	エ) その他	／		
	カ) 総合	△		
	目標の妥当性	△	上記理由による。(各学校に何人の応援団がいればよいのかなどを調査し、それを目標にすべき。)	
	指標②		学校安全安心ボランティア事業	
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	評価	・適切・妥当と判断する ・分かりやすい。 ・地域住民ボランティアの積極的な活用はよい。	
	ア) 代表性	○		
イ) わかりやすさ	○			
ウ) 普遍性	○			
エ) その他	／			
カ) 総合	○			
目標の妥当性	○	適切・妥当と判断する		
指標③		学校評議員設置園・校数		
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	評価	適切・妥当と判断する		
ア) 代表性	○			
イ) わかりやすさ	○			
ウ) 普遍性	○			
エ) その他	／			
カ) 総合	○			
目標の妥当性	○	・適切・妥当と判断する ・早く100%を達成して欲しい。		
指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点	
		○	・①と②の指標は小学校が対象となっており、中学校、幼稚園の指標は③しかない。施策の対象が幼、小、中となっていることから、指標の代表性について若干疑問が残る。 ・施策の成果という観点からは、受益者となる児童生徒や保護者が、学校の内外でどの程度安全安心を感じているかといったことを調査し、それを指標化することも必要ではないか。	
	目標の達成度(指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	
		○	適切・妥当と判断する	

〔評価〕 ○:良い(重要) △:やや疑問(あまり重要でない) ×:問題あり(重要でない) -:該当なし

(3) 経費・財源について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
ア) 必要事項は記載されているか	/	
イ) 記載内容の正確性	/	
(4) 評価について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
成果	ア) 評価区分の妥当性	○ 適切・妥当と判断する
	イ) 判断理由の妥当性	○ 適切・妥当と判断する
	ウ) その他	/
成果と経費の比較	ア) 評価区分の妥当性	○ 適切・妥当と判断する
	イ) 判断理由の妥当性	○ 適切・妥当と判断する
	ウ) その他	/
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	△ 何をどのように見直し、検討した結果なのか、成果と要因との関係についてより詳しく記載して欲しい。
	外部要因 記載内容の妥当性	△ どういう観点から浸透したと判断し、また、どういう点で活動がやりやすくなったのか、より具体的に記載して欲しい。
総合評価	ア) 評価区分の妥当性	○ 適切・妥当と判断する
	イ) 判断理由の妥当性	○ 単に目標値を記載しただけと言える。
	ウ) その他	/
(5) 改革・改善案について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
	ア) 評価結果との関連性	○ 適切・妥当と判断する
	イ) 内容の具体性	△ 何をどのように改善するのかがわかりにくい。単に目標値を記載しただけと言える。
	ウ) その他	/
(6) その他		
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・対象は、小中学校ではないかと思うが、小学校だけに対する事務事業のように取れるが、それでよいのか。 ・保護者や児童生徒の意見をもっと広く把握した方が良いのでは？（より理解を得るために）

〔評価〕 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) -:該当なし

施策名		322. 小中学校の教育内容を充実する		
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
施策を達成する手段として適当か	○	世間でよく言われる「公立中学離れ」、「国際的な教育レベルとの大きな格差」の存在に対処するには、今行われている事務事業では十分対処しきれていないのではないかと。より挑戦的な事業をもっと取り入れないと、練馬や日本の教育レベルは国際的に大きく後れを取るのではないかと。		
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標①		授業の充実感	
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	△	・掲げられた指標名「授業の充実感」と定義、目標が一致していない。指標と設定理由は異論なく納得出来るので、目標において「楽しい」だけでなく「理解出来る」という要素も不可欠である。 ・授業が充実していると言うことは「楽しい」と感じるだけではなく、授業内容を生徒がしっかりと理解し、身につけている＝生徒の実力が上がったと言うことを生徒が感じることはないのか。このままでは、練馬の学校は平均的な日本人しか育てないことになるのではないかと。「学力向上事業」の意味をもっと前面に出すべきと思う。 ・楽しさに加え、授業の理解度、満足度等、幾つかの指標を組み合せ、それら全ての指標の平均値を施策の指標とした方がよいのではないかと(但し、指標のウェイト付けについては別途要検討。)
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	△	
		エ) その他	／	
		オ) 総合	△	
	目標の妥当性	△	設定された指標の目標値については特に問題はないが、上記のとおり指標の変更が望まれる(単一指標で全てを測るとするのはあまりに安易すぎる)。	
	指標②		不登校児童・生徒の出現率	
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	○	・適切・妥当である。 ・区民も知りたいと思っている、重要な指標と考える。
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	○	
		エ) その他	／	
		オ) 総合	○	
目標の妥当性	△	目標の根拠が明確でない。単なる半減ではなく、他の区での率やあるべき姿との比較で目標を決めるべきではないのか。		
指標③		特別支援学級の設置学校数		
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 代表性	○	適切・妥当である。	
	イ) わかりやすさ	○		
	ウ) 普遍性	○		
	エ) その他	／		
	オ) 総合	○		
目標の妥当性	○	区の追加説明により適切・妥当と判断する。		
指標全体の評価	指標の代表性	△	コメント・改善点 選定された指標は概ね妥当と考えるが、①の指標については、学力向上の観点を入れる等、見直しが必要である。	
	目標の達成度(指標のみから判断した達成度)	○	コメント 適切・妥当である。	

[評価] ○:良い(重要) △:やや疑問(あまり重要でない) ×:問題あり(重要でない) -:該当なし

(3) 経費・財源について

検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
ア) 必要事項は記載されているか	／	
イ) 記載内容の正確性	／	

(4) 評価について

検討・評価の視点		評価	コメント・改善点
成果	ア) 評価区分の妥当性	○	適切・妥当である
	イ) 判断理由の妥当性	○	適切・妥当である
	ウ) その他	／	
成果と経費の比較	ア) 評価区分の妥当性	○	適切・妥当である
	イ) 判断理由の妥当性	○	適切・妥当である
	ウ) その他	／	
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	○	適切・妥当である
	外部要因 記載内容の妥当性	△	学力向上の要求は重要な外部要因であると考えますが、この視点が記述から欠落している。
総合評価	ア) 評価区分の妥当性	○	適切・妥当である
	イ) 判断理由の妥当性	○	適切・妥当である
	ウ) その他	／	

(5) 改革・改善案について

検討・評価の視点		評価	コメント・改善点
	ア) 評価結果との関連性	○	
	イ) 内容の具体性	○	<ul style="list-style-type: none"> ・①については、国や都が行なっている学力調査の結果と練馬区の生徒・児童の学力レベルとの関係やそれとの関係における学力向上策などが見えないため、評価結果との関連性がうまく読めない。 ・②、③についての記述は具体的でわかりやすいと思う。 ・ソーシャルスキルトレーニングは、核家族化、片親化が進む環境下では、特に必要な能力と考えるので、練馬区としては力をいれて欲しい。
	ウ) その他	／	

(6) その他

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年より全国学力・学習状況調査が実施されている。また、施策評価表の改善案でも学力の向上の必要性が確認されている。授業の充実に関する指標に加え、学力調査の結果を区の指標（確かな学力の指標の一つ）としてみていくことを検討すべきではないか。 ・悪い状態を支える指標はこの程度かと思うが、学校教育の充実度としては、平均的なレベルの充実だけでなく、より高いレベルを目指す指標が欲しい。外の実態（各県、世界など）をベンチマーキングし、教育レベルの向上を狙うのも一案である。
-----	--

〔評価〕 ○: 妥当(問題なし) △: やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×: 妥当性を欠く(問題あり) -: 該当なし

施策名		332. 家庭・学校・地域の連携を支援する		
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
施策を達成する手段として適当か	△	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施策の目指す状態から考えると、「家庭や学校との連携」を目的とした事務事業が足りないように思う。 ・ 「青少年を健全に育成している状態」の定義や指標が見えないが、これらを明確にすれば、事務事業がもう少し出てくるのではないかと。(保護者や青少年自身がどう受け止めているのかなどの視点から見たもの) 		
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標①		青少年育成地区委員会事業に参加した青少年の延べ人数	
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	△	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数値としてとりやすいが、延べ人数だと、全く参加していない青少年がどれくらいいるのかが分からない。 ・ 参加者数が多いに越したことはないが、併せて、本委員会事業への参加した若者が参加したことで自己変革を果たしたり、次代に向けてなすべきことへの手がかかりが得られるなどを体感することが必要。その意味では、この指標とは別に、参加者アンケートなどに基づく定性的な指標も考慮すべきと考える。 ・ 青少年の定義と母数は幾らなのか、(現事業に参加したい、又は、参加できる人数は幾らなのか?) その中の何%が参加したのか、等についても明確にしておく必要がある。
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	△	
		エ) その他	/	
		オ) 総合	△	
	目標の妥当性	○	区からの追加説明を受けて妥当と判断した。	
	指標②		練馬区内の少年非行補導件数	
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	○	適切・妥当と判断する。
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	○	
		エ) その他	/	
		オ) 総合	○	
目標の妥当性	△	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体の対象人口が減れば非行補導数は必然的に減るため、割合で見るとべきである。 ・ 他の地域や国の比率と比較することで更に区としてやるべき事が明確になると考える 		
指標③				
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 代表性			
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 普遍性			
	エ) その他			
	オ) 総合			
目標の妥当性				
指標全体の評価	指標の代表性	△	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会全体で青少年を健全に育成している状態を見るには、物足りない。 ・ 青少年が、自ら次代を担う青少年として成長するために、練馬区が提供している各種のツールが有効かどうかなどのアンケートを実施し、それを指標としてはどうだろうか。 ・ 指標についてはさらに追加する余地がある。例えば、青少年の教育・将来に不安を感じている区民あるいは家庭の割合を把握する等が考えられる。 	
	目標の達成度(指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	
		○	適切・妥当と判断する	

[評価] ○:良い(重要) △:やや疑問(あまり重要でない) ×:問題あり(重要でない) -:該当なし

(3) 経費・財源について

検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
ア) 必要事項は記載されているか	／	
イ) 記載内容の正確性	／	

(4) 評価について

検討・評価の視点		評価	コメント・改善点
成果	ア) 評価区分の妥当性	○	・適切・妥当と判断する ・18年度の数値だけで、増加①、又は減少②傾向とするのは時期尚早。19年度の数値を知りたい。
	イ) 判断理由の妥当性	○	・現状の指標の推移のみで判断すれば妥当である。ただし、①は、活動指標であり成果指標ではない。②の目標は、成果が出ているのなら更に目標を下げて、ストレッチ目標とすべきである点に留意が必要である。
	ウ) その他	／	
成果と経費の比	ア) 評価区分の妥当性	△	「予算を増やすことなく成果が上がっている」というが既存のデータからはそれが読み取れない。
	イ) 判断理由の妥当性	△	同上の理由による
	ウ) その他	／	
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	○	・折角成果が出ているのだから、より詳しく記述し、評価者を「なるほどこのような理由があるのか」と納得させるような書きっぷりにして欲しい。本欄は、要因の多くが区や区の職員の皆さんの努力に起因するものだから尚更です。 ・啓発活動を着実にこなしてきたというのはどういう意味か（着実にこなされない状況があり得るのか、成果が上がったのはなぜかという観点からより深く分析する必要があるのではないか。）。
	外部要因 記載内容の妥当性	○	最近の青少年犯罪の増加に十分対応できる様になっているかの視点が欲しい。
総合評価	ア) 評価区分の妥当性	△	①は、19年度の結果を見てから判断したい。 ②は、全国的数字との対比を見てから判断したい。
	イ) 判断理由の妥当性	△	②は今後の取組み方針であり、判断理由としては不十分。
	ウ) その他	／	

(5) 改革・改善案について

検討・評価の視点		評価	コメント・改善点
	ア) 評価結果との関連性	○	改善の方向としては妥当である。
	イ) 内容の具体性	△	・改善案の内容はよいと思うが、評価結果との関連性（どういう理由でこのような改善案に至ったのか）が読み取りにくい。 ・この評価表の内容からは、実際に実施しているスキームなのか、これから実施しようとしているスキームなのかが分かりにくい。
	ウ) その他	／	

(6) その他

その他	<ul style="list-style-type: none"> ・施策311と施策332は内容が似ているにも関わらず施策を分けている。これにより、全体像がわかりにくくなっている。 ・青少年の健全な育成については、具体的な対策を立てて取り組んでいただきたい。非行に向かう児童・生徒が、一人で悩まずに相談できる地域社会づくりを目指す具体的な取り組みは何かを検討されるべきである。 ・「青少年を健全に育成している状態」の定義や指標が見えないが、これらを明確にすれば、事務事業がもう少し出てくるのではないかと。 ・大きなテーマに対して、事務事業の数が少なすぎるという印象。家庭・学校・
-----	---

〔評価〕 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) -:該当なし

施策名		341. 生涯学習活動を支援する		
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
施策を達成する手段として適当か	△	<ul style="list-style-type: none"> ・事務事業評価表によると、26件中、成果が上がっているとする事業は7件に過ぎず、この施策評価表も成果はBであるので、施策達成の手段としては力不足と考えられる。早急にアンケートなどによって区民の評価や意見をいただき、全体の抜本的な見直しをするべきと思う。 ・こどもから高齢者までを対象とした情報提供、場所、機会の提供は適当だが、「ともに学び合う活動」を活発におこなっている状態を目指すには、少し物足りないように感じられる。 ・区の施設を利用した生涯学習活動が中心となっている。施設(ハード)の利用を必要としないソフトを中心とした事務事業を手段として追加していくことも検討してはどうか。 		
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標①		生涯学習施設の利用件数	
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	△	<ul style="list-style-type: none"> ・数値としてはわかりやすいが、目標とする「ともに学び合う」、「協働する」などの区民の関心を満たしている状態は表せていない。 ・成果を見るならば施設(生涯学習活動関連施設全体)の稼働率や施設利用者が各種学習活動に参加した際の満足度等を指標とするべきではないか。
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	○	
		エ) その他	/	
		オ) 総合	△	
	目標の妥当性	△	<ul style="list-style-type: none"> ・人口増加により団体規模が大きくなることも考えられるため、人口の増加分に比例して団体数が増えるとは考えにくい。したがって、仮に団体利用総件数の増加率を指標と定めるにしても、増加率は他の要因(例えば、区側の積極的な働きかけを前提にした努力目標)を考慮して決めることが望ましい。 	
	指標②		生涯学習活動に参加した区民の人数	
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	○	これも一つの指標となり得ると思うが、施策の目指す状態を表す指標としては若干もの足りない。
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	○	
		エ) その他	/	
		オ) 総合	○	
目標の妥当性	△	指標①と同様の理由。		
指標③				
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 代表性			
	イ) わかりやすさ			
	ウ) 普遍性			
	エ) その他			
	オ) 総合			
目標の妥当性				
指標全体の評価	指標の代表性	△	<ul style="list-style-type: none"> ・①、②ともに活動指標である。「ともに学びあった結果」はどのような状態なのか、定義を明確にした上で成果指標を検討する必要がある。また、成果指標とするには網羅性が必要と考えられる。 ・「生涯各期」における生涯学習の状況が上記の指標からは判断できない。 	
	目標の達成度(指標のみから判断した達成度)	△	<ul style="list-style-type: none"> ・両項目共に目標が達成できていない。 ・成果指標①については、団体数は必ずしも人口増加率に比例して増えるものではなく、逆に団体数が減れば実績値が下がる可能性がある。一方、成果指標②の場合は、18年度の実績値そのものが前年比減少しており、目標未達成と判断される。 	

(3) 経費・財源について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
7) 必要事項は記載されているか	／	
1) 記載内容の正確性	／	
(4) 評価について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
成 果	7) 評価区分の妥当性	△ Bであることは間違いないが、「目標の方向に向かっている」とは判断し難い。
	1) 判断理由の妥当性	△ ・実績は伸びていない。 ・施設利用件数が増える中で、目標値未達成の理由が不明。
	7) その他	／
成果と経費の比較	7) 評価区分の妥当性	○ 適切・妥当と判断する。
	1) 判断理由の妥当性	○ 適切・妥当と判断する。
	7) その他	／
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	△ ・区民が十分選択出来ると記載あるが、目標は未達成であり、記載内容と繋がらない。 ・施設がフルに活用できる状態になれば、必然的に施策の成果は上がるというロジックは成り立たないのではないか。区民が十分に選択できる状況であっても、区民がそれを選択しなければ成果はあがらない。この点について区はどのような取り組みを行い、どうしてうまくいかなかったのかを分析する必要がある。
	外部要因 記載内容の妥当性	△ ・論旨展開が不適切である。つまり、「区民の学習意欲の向上」→「それを後押しする事業を区が提供」→「区の所管する各種事業への参加」との流れで記述するのが自然。現状では区以外のところが提供するサービスへ区民が向かっていると読める。 ・外部要因として上がっているが、この状況を踏まえた上で区の事業が展開されていることが大前提ではないか。
総合評価	7) 評価区分の妥当性	○ 適切・妥当と判断する。
	1) 判断理由の妥当性	△ 改修だけが利用者が増えない要因と思えない。
	7) その他	／
(5) 改革・改善案について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
7) 評価結果との関連性	○	適切・妥当と判断する。
1) 内容の具体性	△	・それぞれに代表的な問題点とそれに対する改革・改善案を提示する形で記載してもらえると分かりやすい。 ・世代別にどのような生涯学習支援を行なっていくか等、より詳しい改革案を明記して頂きたい。
7) その他	／	
(6) その他		
その他		<ul style="list-style-type: none"> ・この施策の目指すところは、生涯学習活動に参加した区民がそれをさらに他の区民のために役立てることにあり、まずはこれを施策の指標として設定すべきである。 ・「生涯学習活動」に対する支援を世代別に満遍なく提供する必要はないと考える。中心となるターゲットは小中学生よりもむしろ現時点で学業に直接的に関与していない区民と捉え、よりターゲットを絞ったサービスを提供していくことが望まれる。 ・区民の関心が高い施策と思うが、区民のニーズにあった事業が提供できているのだろうか？この点について確認の必要がある。

〔評価〕 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) -:該当なし

施策評価表検討表

第2専門部会協議結果 (5/1現在)

施策名		511. 参加と連携による開かれた行政を進める		
(1) 施策を達成する手段(事務事業)について				
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点		
施策を達成する手段として適当か	○	事務事業評価表によると、有効な31件中、成果が上がっているとするA事業は17件で、伝統的な事務事業(選挙管理関連など)が主であるが、区民との協働などを促進する事務事業14件は殆どがBであるので、施策達成の手段としては力不足と考えられる。新施策を推進するには見直しが必要と考えられる。		
(2) 成果指標について				
指標別の評価	指標①		区政情報が容易に入手できると感じる区民の割合	
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	○	適切・妥当と判断する。
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	○	
		エ) その他	/	
		オ) 総合	○	
	目標の妥当性	○	適切・妥当と判断する。	
	指標②		構成員に3割以上の公募区民枠を設定している附属機関等の割合	
	視点	評価	コメント・改善点	
	指標の性質	ア) 代表性	○	適切・妥当と判断する。
		イ) わかりやすさ	○	
		ウ) 普遍性	○	
		エ) その他	/	
		オ) 総合	○	
目標の妥当性	○	区より追加説明を受け、適切・妥当と判断する。		
指標③		区民の声の件数		
視点	評価	コメント・改善点		
指標の性質	ア) 代表性	△	指標の定義からすると消極的な収集方法と考えられる。もっと積極的に、あらゆる機会を捉えて、区民の声、意見を収集して行政に反映させるべきと思う。更に、区民の声の件数だけでは、活動指標であり、場合によっては単なる反対意見であることもあるので、各事業に対する満足度、納得度などを把握すべきである。	
	イ) わかりやすさ	○		
	ウ) 普遍性	○		
	エ) その他	/		
	オ) 総合	△		
目標の妥当性	○	適切・妥当と判断する。		
指標全体の評価	指標の代表性	評価	コメント・改善点	
		○	①、②は良いが、大事な③は代表性が特に低い。	
	目標の達成度(指標のみから判断した達成度)	評価	コメント	
	○		③は達成していないが、指標のみから判断すれば概ね「適切・妥当」と考える。	

〔評価〕 ○:良い(重要) △:やや疑問(あまり重要でない) ×:問題あり(重要でない) -:該当なし

(3) 経費・財源について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
ア) 必要事項は記載されているか	／	
イ) 記載内容の正確性	／	
(4) 評価について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
成果	ア) 評価区分の妥当性	○ 適切・妥当と判断する。
	イ) 判断理由の妥当性	○ 適切・妥当と判断する。
	ウ) その他	／
成果と経費の比較	ア) 評価区分の妥当性	○ 適切・妥当と判断する。
	イ) 判断理由の妥当性	○ 適切・妥当と判断する。
	ウ) その他	／
要因分析	内部要因 記載内容の妥当性	○ 適切・妥当と判断する。
	外部要因 記載内容の妥当性	○ 適切・妥当と判断する。
総合評価	ア) 評価区分の妥当性	○ 適切・妥当と判断する。
	イ) 判断理由の妥当性	○ 良い点のみだけが述べられているが、悪い点についても考慮されるべき。
	ウ) その他	
(5) 改革・改善案について		
検討・評価の視点	評価	コメント・改善点
	ア) 評価結果との関連性	○ 適切・妥当と判断する。
	イ) 内容の具体性	○ ②は誰が中心となってどのように検討を進めていくのか、③については、何をどのように情報提供手段や内容を充実させるのか、もう少し具体的な記載があるとわかりやすい。
	ウ) その他	／
(6) その他		
その他		・ 区民の区政への意見反映を増やす仕組みの改革が必要である。詳細は、昨年策定された「練馬区行政改革推進プラン」の提言項目6、7を参照のこと。

〔評価〕 ○:妥当(問題なし) △:やや疑問・情報不足等により判断が困難 ×:妥当性を欠く(問題あり) -:該当なし